

高齢者乳がんに対するマンモグラフィと超音波検査の
乳がん検出能に関する研究
(臨床・疫学研究に関する公開情報)

北海道科学大学大学院保健医療学研究科の真田研究室では、これまでの診療で記録された情報をを用いた臨床・疫学研究を行っています。

この研究は、通常の診療の中で作成された過去の記録をまとめて分析するもので、新たな検査や治療を行うものではありません。

このような研究については、厚生労働省の定めた指針により、患者さんお一人ずつから直接同意をいただく代わりに、研究内容を掲示などでお知らせすることが求められています。

もし、ご自身の診療情報がこの研究に使用されることを希望されない場合や、研究についてご質問がある場合は、下記の「問い合わせ先」までご連絡ください。

研究名：高齢者乳がんに対するマンモグラフィと超音波検査の乳がん検出能に関する研究

研究機関：北海道科学大学大学院保健医療学研究科 真田研究室

研究実施期間：北海道科学大学学長の許可後から 2026 年 6 月 30 日まで

研究責任者：真田 哲也（所属 大学院保健医療学研究科）

院内責任者：堀田 浩（所属 さっぽろ麻生乳腺甲状腺クリニック）

研究の目的：

日本では人口が減少する一方で、65 歳以上の高齢者の割合は増え続けています。それに伴い、乳がんを患う高齢の方も増えており、今後は高齢者に対する乳がん対策がより重要になると考えられます。また、高齢化の進行により、老人福祉施設などを利用する方も増えており、施設における乳がんへの対応についても検討が必要です。

乳がん対策の一つとして乳がん検診があり、国はマンモグラフィ検査を推奨しています。しかし、老人福祉施設などを利用している方の中には、車椅子を使用している方やベッドで生活している方も多く、マンモグラフィ検査を受けることが難しい場合があります。

そのような状況の中で、検診による早期発見を希望する方に対しては、体への負担が少なく、任意型検診として広く行われている超音波検査が活用できる可能性があります。

そこで本研究では、高齢者の乳がんに対する超音波検査によるがんの見つけやすさを、これまで多くの実績があるマンモグラフィ検査と比較し、超音波検査の有用性を明らかにすることを目的としています。

研究の方法：

対象

本研究では、2017 年 1 月から 2024 年 12 月までの 8 年間に、さっぽろ麻生乳腺甲状腺クリニックで乳がんと診断され、病理組織学的に乳がんが確認された症例を対象とします。このうち、65 歳以上で発見された早期乳がん(Stage 0～ⅢA)症例のうち、初診時にマンモグラフィ検査と超音波検査の両方が実施された約 300 例を抽出し、解析対象とします。

方法

初診時に実施されたマンモグラフィ検査と超音波検査の結果について、医師が異常なし(カテゴリー1)からがんが確定している(カテゴリー5)までの5段階で評価した記録を用います。これらの検査結果をもとに、診断結果や病理検査の結果と照し合わせながら、両検査がどの程度乳がんを見つけることができたかを、過去のデータを使って比較検討します。

マンモグラフィ検査および超音波検査のカテゴリー分類は以下の通りです。

- ・ カテゴリー1: 異常なし
- ・ カテゴリー2: 良性
- ・ カテゴリー3: 良性だが悪性を否定できず
- ・ カテゴリー4: 悪性疑い
- ・ カテゴリー5: 悪性

本研究では、カテゴリー3以上を「検出」と定義し、検出能を評価します。

検討項目

以下の項目について、マンモグラフィ検査および超音波検査の乳がんを検出する能力を比較します。

- ・ 年齢
- ・ BMI
- ・ 乳房構成(乳腺量)
- ・ MGにおける乳房厚
- ・ 組織型(非浸潤がん・浸潤がん)
- ・ 病期(Stage 0・I)

個人情報の取り扱い:

お名前や住所など個人を直接特定できる情報は収集しません。また、研究成果は学会や学術雑誌に発表されますが、その際にも個人を特定できる情報は利用しません。

問い合わせ先

北海道科学大学 大学院保健科学研究科

〒006-8585 札幌市手稲区前田7条15丁目4-1

教授 真田 哲也 (Email: breast_study_rt@hus.ac.jp)